

5 . 認知症の人への対応の心得

認知症の症状には、本人が最初に気づくことが多いようです。認知症が進むと、段取りがうまくできないため、今までできていたのにできなくなることが徐々に増えてきます。

認知症になったのではないかという不安は、健康な人の想像を絶するものでしょう。誰よりも心配し、苦しみ、悲しんでいるのは、認知症になった本人だということを考えながら接することが大切です。

本人の気持ちになって対応することを心がけましょう。

1 . 驚かせない 2 . 急がせない 3 . 自尊心を傷つけない

具体的なポイント

まずは、見守る

さりげなく様子を見守りましょう。

余裕をもって対応する

こちらが焦りを感じていると、相手に伝わって動揺させてしまいます。自然な笑顔で対応しましょう。

声をかけるときは一人で

複数で取り囲むと恐怖心をあおりやすいので、できるだけ一人で声をかけましょう。

後ろから声をかけない

一定の距離で相手の視野に入ったところで声をかけます。唐突な声かけは禁物です。「お手伝いしましょうか」などやさしく声をかけましょう。

相手の目線に合わせて

おだやかにはっきりと

相手の言葉に耳を傾けて、ゆっくり対応する

認知症の人は急がされるのが苦手です。

同時に複数の問いに答えることも苦手です。相手の反応を伺いながら会話をしましょう。たどたどしい言葉でも相手の言葉をゆっくり聴き、なにをしたいかを相手の言葉を使って、推測、確認をしていきましょう。